



奈良文化財研究所創立60周年記念 飛鳥資料館秋期特別展 「花開く都城文化」

会期：2012年10月19日（金）～12月2日（日）

飛鳥資料館ではこの秋に、奈良文化財研究所創立60周年を記念して、秋期特別展「花開く都城文化」を開催します。

古代の日本を取り巻いた、唐や朝鮮三国。各国には、整然とした花の都－都城が置かれていました。日本にも、大陸の文化が導入され飛鳥の都や藤原京、そして平城京が造られていきました。本展は、日本・中国・韓国の各国の都城から発掘された遺物を中心とし、古代の各国の交流や、さまざまな違い、特徴、更には生活の様子が浮かび上がるような展覧会としており、各国の「花の都城」の文化を目のあたりにできます。本展は、飛鳥資料館としてこれまでに無い大規模な展覧会となり、多くの来館者の皆様が興味を持って楽しんでいただけるような展示の工夫も凝らしています。

しかし、奈文研創立60周年記念の大きな展覧会というだけではありません。本展は奈文研と中国・韓国の国立研究機関との共同研究の成果を発表する場でもあります。海外の研究機関との交流で、奈文研の研究員が中国や韓国の都城で発掘作業をおこなったり、その反対に先方から研究員を受け入れて、平城京や藤原京と一緒に汗を流して発掘作業をおこなっています。そういった様子は、これまで奈文研ニュースにもたびたび掲載されています。そんな三国の研究機関のこれまでの友好の証として、貴重な出土遺物を奈文研の節目の年にお借りすることができ、こうしてこの秋、飛鳥資料館で皆様のお目にかけることができます。

そして、今回の展覧会に合わせて、当館では大規模な模様替えをしています。秋期特別展に合わせてがらりと印象を変えたロビー、第一展示室、特別展示室で来館者の皆様をお迎えします。

文化の秋に、生まれ変わった飛鳥資料館で、花の都城の文化に触れてみるのも優雅な過ごし方ではないでしょうか。多くのお客様のご来館をお待ちしております。
(飛鳥資料館 成田 聖)



「花開く都城文化」展示室イメージ